

## プロジェクト課題活動実績

### 課題名：大道地域の持続可能な営農体制の構築

山口農林水産事務所農業部      チーム員：宇佐川恵、明石義哉、稲葉晋子、中村早紀、  
西尾友佑、安良田勉

#### <活動事例の要旨>

防府市西部の大道地域において、担い手の高齢化等による不作付地発生を防止し、持続可能な営農体制の構築を目指すため、新たな担い手となる（株）Fの組織体制強化等を支援した。

#### 1 普及活動の課題・目標

防府市大道地域では、3つの集落営農法人と、この3つの集落営農法人を含めた連合体が設立されており、各地区で営農が実施されている。

また、集落営農法人が設立されていない地区では、個人の認定農業者等が地区の営農を担っているものの、担い手の高齢化等による不作付地の発生が懸念されており、新たな担い手の育成が急務となっている。

そこで、大道地域の連合体である（株）Fが各地区の新たな担い手となれるよう組織体制等の強化を進める。

#### 2 普及活動の内容

##### （1）新規就業者確保支援

新規就業者の確保に向けて、農業大学校への求人、就業ガイダンス対応、採用までの手続きと雇用規定の見直し等を支援した。

また、農業大学校の現地実習やインターンシップ受入を支援し、知名度向上を図った。

##### （2）トヨタ式カイゼンを活用した労務管理等の改善

トヨタ式カイゼン指導者が行う年間4回の現地指導に同席し、倉庫及び事務所の整理整頓、水稻育苗作業工程の効率化、タマネギ出荷調製作業工程の効率化、ほ場管理の効率化に向けたKSAS（農作業管理システム）、xarvio（生育予測システム）の導入支援、新入社員受け入れ準備に取り組んだ。

カイゼンの取組を進める中で、これまで実施した内容について、チェックリストを用いて従業員と振り返り、新たな作業の改善案が出されるようになるなど、組織としてより良い方向に向かっていることが確認された。

##### （3）水稻省力低コスト化

（株）Fの直営ほ場においては、限られた人員において約40haの農地を管理しており、基幹作物である水稻の省力・低コスト化が必要となっているため、水稻乾田直播を実証し、省力・低コスト化の効果確認を実施した。また、水稻乾田直播栽培に必要な播種機の導入及び事業活用について支援した。

水稻乾田直播における10aあたりの資材費・労働時間・減価償却費は、慣行区（密苗移植）よりも低減できることが確認できた。

#### (4) タマネギ生産拡大支援

(株) F と (農) K によるタマネギの共同栽培について、ほ場準備及びほ場での病害虫防除、除草、中耕、施肥等の管理を(株) F が引き受け、育苗作業を(農) K が実施、播種、定植と収穫作業は共同で行う等、作業連携に取り組む中で、課題の整理と改善を支援した。

また、水稻作業との競合を避けつつ、出荷調製作業の省力化を図るため、県外加工業者との簡易加工出荷に取り組み、それに適した大玉生産の栽培実証と簡易乾燥実証を行った。更に、収穫機械の共同利用調製の面から、作型の前進化が可能な品種の検討、省力施肥の栽培実証を行っている。

### 3 普及活動の成果

#### (1) 新規就業者確保支援

新規就業ガイダンスや農業大学校土地利用学科の現地実習、インターンシップ受入の調整等を支援し、農大生が(株) F の直営ほ場や構成法人のほ場において、各種作業を体験した。地元法人の知名度向上につながり、令和7年4月から入社する新規就業者1名を確保することができた。

#### (2) トヨタ式カイゼンを活用した労務管理等の改善

現地指導が円滑に進むように支援し、(株) F の作業効率化や省力化を進めることができた。また、カイゼンの効果が得られるよう現地指導後に指摘事項のチェックシートを農業部で作成し、実際に改善されているかどうかを確認した。効率的な組織運営体制整備に繋げることができた。

#### (3) 水稻省力低コスト化

水稻乾田直播栽培について、実証区を設置し、慣行区(密苗移植栽培)よりも省力低コスト化が図れることが確認できたものの、実証区においては雑草害により大幅に減収した。雑草害については、防除適期の作業競合(移植水稻の代かき・田植)により初期雑草対策に失敗したことが主要因であることも把握できており、来年度に向けて、移植栽培と乾田直播栽培のほ場選定(面積比率)、用途別品種別での栽培様式を検討し、作業競合を回避して移植栽培・乾田直播栽培ともに収量・収益が確保できるよう指導することができた。

また、乾田直播栽培に必要な播種機については、県事業を活用して導入済みであり、来年度以降、本格的に取り組む直播栽培の作付面積拡大に繋げることができた。

#### (4) タマネギ生産拡大支援

同一ほ場における共同栽培や、共同育苗などの法人間における作業連携の課題整理と改善の提案、栽培技術指導、加工出荷向け大玉栽培実証、簡易乾燥実証等の省力出荷体系の支援を実施したことにより、(株) F の R 6 年産タマネギ計画生産量 30t・単収 5t/10a に対し、36t・6t/10a の実績を上げた。これらは、法人の負担軽減や水稻との作業競合をさけることで実現し、更なる作付面積拡大が見込まれる。

#### 4 今後の普及活動に向けて

経営の柱である水稻部門の省力低コスト化、新たな経営品目タマネギの生産安定を支援するとともに、新規就業者が安心して働くことができ、やりがいを実感できる環境整備を図ることで就業者の定着を図る。これらにより、(株) F の組織体制強化を実現し、防府市大道地域の持続可能な営農体制の構築を目指す。



農大生によるタマネギ選果実習受入れ



効率的なほ場管理の協議